

月報書生閑話

monthly newsletter shosei kanwa 創刊第一号 本郷版 since 2017.07



本郷には、
書生の暮らしが
まだ生きている。

本郷は、書生の街。書生生活の日常を紹介します。

書生——維新の風が吹いてからというもの、東大・帝大を擁する本郷の街にはたくさんの方々が生活してきました。書生とは貧乏学生のいわゆる居候。住処を与えられる代わりに、ちよつとした小間使いをしていたわけですね。明治から昭和にかけて、下宿屋だったり書生だったり、たくさんの方々がこの街で育ってこきました。

そう、本郷は「書生の街」。

時代は移り変わり、スマートフォン全盛の現代にあっても、本郷には「書生」が形を変えて残っています。もちろんこれを書いているワタクシめも、現在まさに書生として本郷に住んでおります。

これから毎月皆様にお届けする「月報書生閑話」では、現代の書生が、本郷の街にどれだけお世話になっているのか、どのように暮らしているのか、そして本郷の街にどのように参加させていたいただいているのかなど、ちよつとずつお伝えしようと思っております。今後ともどうぞ、ご最良に。

それでは、皆様よろしいでしょうか？
「月報書生閑話」の始まりはじまり。

本郷地域のまちづくりを進めるNPO法人街ing本郷には、書生生活というユニークな制度があります。

<http://shosei.tokyo>

本郷の街は書生生活を応援しています。一緒に書生を応援してください。大家さん・不動産屋さんなどを大募集。ご連絡は下記よりどうぞ。

mating-hongo@nifty.com

書生のまち活動日誌

「東京文化資源会議

本郷のキオクの未来プロジェクトチーム」

本郷に住み始めて四年目の書生の一人は、二〇一六年度から「本郷のキオクの未来」というチームに企画・運営しています。

契機となったのは、二〇一五年九月の銭湯・菊水湯さんの閉業、二〇一六年三月の旅館・朝陽館さんの閉業。かつて本郷を彩ってきた旅館や下宿屋、銭湯といった「文化資源」は、時代の変化を経て危機的な状況を迎えていると言わざるを得ません。現に今年に入ってから、近江屋洋菓子店さんやかねやすさんといった本郷の老舗の閉業の報告が入ってきています。

「本郷のキオクの未来」は、そういった本郷の文化資源を記録し、活かし、守る方策を考えることを主眼として活動しています。今年度は、東京大学の研究者や文京建築会ユース、地元企業さんや地域の方々などを巻き込み、さらに「東京文化資源会議」という運動体と連携しながら、東京の中の本郷という街の位置付けを捉え治したいと思っています。

とはいえ、私はまだ本郷若輩者。今後とも、本郷にお住いの皆様の御教示をいただきながら少しでもまちのお役に立てればと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



鳳明館森川別館にて行った打ち合わせ時の一コマ。ローマ風呂の中で記念撮影、不思議な感じです。

書生コラム

書生節

「書生書生と軽蔑するな

末は太政官のお役人」

「へ散切り頭を叩いて見れば

文明開化の音がする」

おそらく皆さんご存知のこのフレーズ。明治時代の文明開化を歌い上げる有名な一節ですが、この続きをご存知ですか？「書生書生と軽蔑するな／末は太政官のお役人」。

明治時代の書生は、主に「書生部屋」と呼ばれた玄関先の小部屋に住み込みでご奉公をしながら通学していた学生。都心の有力者の学費援助などを受けて暮らしていました。もっとも家庭状況により状況はさまざまで、お金がある家から来た書生はもっと自由に好き勝手遊んでいたこともあるみたいですが、いずれにせよ社会に出たこともない「書生っぽ」として軽んじられていたようです。

とはいえ、本郷界隈にいた書生の中にはやはり東大生(帝大生)も多かったはず。へ

現代の東京大学よりもよほど入学が難しかったこの時代で、選ばれし東大生はまさに「末は博士か大臣か」といったところだったでしょう。

「書生節」と名付けられたこの歌は、書生が街角で歌い上げ、世相を痛烈に風刺していたもの。明治一〇年ごろに流行と言いますから、まさに東京大学の成立前後だったわけですね。同時に「書生を軽蔑するな」と茶化した歌詞のバリエーションも豊富でした。例えばこんな感じ。

大臣参議はみな書生。

へ書生書生と軽蔑するな、
フランスナポレオンも元は書生。

将来大物になるという期待を込められていた「書生」ですが、そのことを自ら高らかに歌い上げる気概はまさにあつぱれ。この書生根性、見習わなければ。



梅雨。濡れる靴には気を留めず、書生が足を向ける先は白く霞みがかっている。本郷通りから一本奥に入った路地裏を満たすやわらかな霧は、鼻から強烈に食欲を刺激する。香ばしい、もつ焼きの匂い……。

フードは基本的に刺し・焼き・煮込みのみとシンプルな構成で、これらをアテにキンミヤ焼酎などを楽しむ。注文必至のもつ煮込みは肉と脂の濃厚なダシが味噌ベースのスープと協奏し、種類豊富な串焼きはどれも旨味が凝縮されている。箸休めにも最適な刺しはまったく臭みがない。全てが高いレベルで完成し

のぞきみ・書生生活

FILE 1: 書生Nの部屋



黒を基調にシックな色調。いいセンスです。

この二月から書生として本郷に住み始めた書生N。四畳半の畳敷きの部屋に住む彼に部屋のコンセプトを聞くと、「明治」という答えが返ってきました。マットレスと布団の上で寝て、ちゃぶ台に向かう生活、いやあなんとも渋いですね。現在書生が住んでいる物件はどこもシャワー・トイレ共用。そんな暮らしの中で、各々の個室にこそ個性が出るのです。



店舗情報
もつ焼きじんちゃん
■住所: 文京区本郷二丁目